

善隣

No.561 通巻828

2025年（令和7年）7月1日発行（毎月1日発行）

2025

7



一般社団法人 国際善隣協会

第14回定時社員総会開催される

2025年5月30日



Zoomによってオンラインの環境を整え、初めて社員総会のもようをライブ公開した。オンライン参加者にもわかりやすい中継を目指して PowerPoint で資料を作成。この資料は会場内のスクリーン上にも投影されたが、会場参加者からも従来の紙の配付資料に比べ格段にわかりやすいと好評を得た。



懇親会冒頭で挨拶する井出亜夫会長

善 隣

目 次

2025年 7 月号

公開講演会記録

戦後80年の日本と世界	山口二郎	2
トランプショックと中国の第四次産業革命	結城 隆	10
マジックのご縁でつながる商工会経済人たちとの交流 ——マジック脳® になろう	野口雅代	19

陶陶俳壇	馬場由紀子	28
------------	-------	----

中国ウォッチング	編・訳 上松玲子	30
----------------	----------	----

協会通信		32
------------	--	----

2025年 7 月の行事予定		33
----------------------	--	----

みんなの写真館

聖ヨハネカネヨ教会（姜晋如）	表紙／32
書画に見る日中交流の精神世界⑥ （橘倉酒造不重来館）	表 4

—— 善 隣 第561号 通巻828号 ——

2025（令和7）年 7 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03（3573）3051
FAX 03（3573）1783

発行人 井出亜夫

編集人 朝浩之

編集協力 山谷悦子、古田紀子

印刷所 (有)ゆにおんプレス
TEL 048-834-1201

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

公開講演会記録

戦後80年の日本と世界

法政大学法学部教授／北海道大学名誉教授 山口二郎



1. 戦後世界の構造

この1週間というか、トランプ政権が始まってからの1か月ぐらいを見るにつけ、戦後80年の遺産が本当に崩壊したということを感じざるわけですね。歴史を振り返りますと、多くのデモクラシーは戦後デモクラシーであった。戦争の後、民主主義が広がるとか実現するというケースが多かったわけですね。20世紀の戦争の後、何が起きたかというのをもう1回復習してみますと、第一次世界大戦というのは人類史上最初の総力戦であり、世界戦争でありました。大戦後、アメリカのウッドロー・ウィル

ソン大統領が14か条平和原則を唱えて戦後世界の秩序について提言をしたわけですね。国際連盟を作り、国際協調で世界を運営していこうとか、あるいは19世紀までの巨大な帝国が解体されて、特にオーストリア・ハンガリー帝国みたいな帝国が解体されて、民族自決でもって国家を作っていくと。ともかくそういう普遍主義的な理想みたいなもので、第一次世界大戦後の世界の秩序を作るうという努力をしたわけです。

しかしながら第一次世界大戦の場合は戦後の秩序が大変脆弱であった。当時は金融など経済活動に対する規制が十分できていなくて、1920年代ア

メリカで資本主義が沸騰して今の言葉で言うバブル状況になる。1929年そのバブルがはじけて世界大恐慌、さらに30年代の不況で世界経済が大混乱するということですね。

だからウィルソンの理想主義、あるいはドイツで言えばワイマール共和制みたいな敗戦後のデモクラシーといった試みはあったわけですけども、今言ったような事由で戦後民主主義は儼くも崩壊したというパターンになりました。

第二次世界大戦の後、ようやく戦後民主主義がいろんな国で確立したわけですね。これは国によっていろんなパターンがあります。アメリカ、イギリスとい

うのは連合国の側で戦争に勝ったわけですから、戦争そのものについてはあまり反省をしていないわけですね。それどころか、第二次世界大戦は民主主義がファシズムを打倒したという大きな物語に乗って、戦後の秩序を作ったわけで、その主役、戦後秩序の最大の支柱は言うまでもなくアメリカでした。アメリカは1930年代の大恐慌の中でニューディールと呼ばれる政策を展開しまして、古典的な小さな政府の資本主義を修正したわけです。

イギリスの場合はといいますと、第二次世界大戦中すでに戦後の政策の構想があったわけです。ウィリアム・ベバレッジという学者が中心になって作った委員会、福祉国家のビジョンを用意しておりました。敗戦後の総選挙で、戦争のリーダーであったウィンストン・チャーチル率いる保守党が負けて、労働党による本格的な政権が初めてできた。その労働党政権がベバレッジプランを実行する。ゆりかごから墓場までと呼ばれる福祉国家を作っていたわけです。労働党と保守党の二大政党制が戦

後、確立するという展開になりました。

ドイツと日本は敗戦国でありまして、これは打ち負かされた全体主義の側ですね。だから戦後のデモクラシーの出発点においては、やはり戦争の反省が原点でした。世界に対して「すみませんでした」と謝ることから始めなければいけないわけです。日本では、戦後の政治体制をどうデザインするかをめぐっては、様々な議論がありました。日本の場合の面倒くささは、天皇制を継続したという点ですね。敗戦から15年くらいの間、右と左のいろんなぶつかり合いがしばらく続いたわけですが、最終的には1960年のいわゆる安保闘争を経て、復古主義的な右派の頭目であった岸信介の野望が潰える。岸政権が崩壊して、戦後の民主主義と平和を共有する開明的な保守勢力が政権を握るに至って、ようやく戦後の日本の民主主義体制が定着するという展開になりました。

重な、そして今となっては脅かされつつある前提条件が存在していたという感じがします。

一つは何と言っても戦争への反省です。戦争で犠牲になった人たちが身近に大勢いた。だからやはり勝った側も負けた側も、戦争はもう二度とてはいけません。んだという反省の上に、戦後の国際社会のルールを作った。みんなが民主主義とか人権というのは大事な価値だということを持っていたわけです。

それからやはりグローバル化以前の時代は、人の移動がそんなに激しくはなかったわけでありまして、社会というのは同質的であった。つまり同じ人種、同じ言語を持つ、同じ宗教を持つ似たような人たちが国民というものを形成していた時代が、割と長く続いたわけです。

戦後は、テレビと新聞という伝統的なマスメディアを通してみんなが情報を得て、もちろん考え方の違いはありますが、同じ情報を共有して世の中を眺めるということが成り立っていた時代です。そういう時代でこそ啓蒙とい

う営みが有効性を持っていた。

それから戦争による破壊を経て、戦後はアメリカもヨーロッパも日本も経済発展を遂げました。その中でどんな技術革新が起きて、私たちの生活が便利になっていくわけです。冷戦構造の中では資本主義も割とおとなしかったというか、多少遠慮していたという面があるわけです。

そのメカニズムというのは経済学ではフォードイズムと呼んでいます。フォードというのはアメリカの自動車会社のフォードですね。フォードがベルトコンベアシステムによる流れ作業で自動車の生産性を一気に上げて、価格を下げ、爆発的に自動車の需要が増えて大儲けをした。技術革新による生産性の向上がもたらした利益の増加を、労働者自身に配分して、労働者自身も自動車を買えるようにする。これがフォードイズムのポイントでありまして、戦後の西側の国々には日本も含めて、フォードイズムの分配が存在した。労働者は、生産性向上に貢献し、会社を儲けさせ、賃上げやボーナスでその一部を受け取って、

自分自身も自動車や電気製品を買うというサイクルで発展していったわけがあります。

2. 戦後秩序の動揺

次に、そういう戦後体制がいかにして崩れていったかという話を、これからしなければいけません。崩れ始めたのはやはり1990年頃です。1989年のベルリンの壁の崩壊、1991年のソ連の消滅、これが冷戦の終焉の最も代表的な出来事であります。冷戦が終わった直後、フランス・フクヤマという政治学者が、『歴史の終わり』という本を出しました。もはや経済における市場メカニズム、政治における自由民主主義は不動の原理であって、そういう価値観、イデオロギーをめぐる対立、戦いは終わった、その意味で歴史が終わったということを主張したわけです。

しかしながら、このフランス・フクヤマの楽観は、やはり外れたわけですね。その後、アメリカは2001年の9・11同時多発テロでもって、いささか平静を失いまして、アフガニスタン

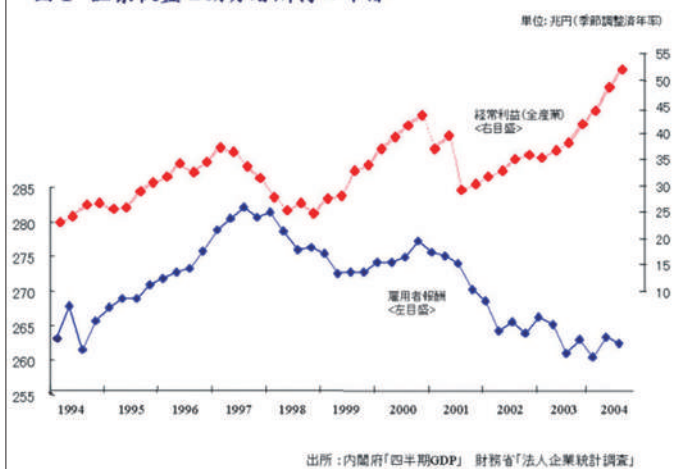
で無益な戦争をした。さらにイラクに攻め込んでフセイン政権を倒した。何のためにやったのか、今となってはよくわからない戦争です。

他方でグローバル資本主義の展開の中で、中国がどんどん経済成長を遂げて超大国になった。今やアメリカに対抗する第二の大国というのは中国だと。さらにはインドなどいわゆるグローバルサウスと呼ばれる国々も台頭してくると。それから冷戦が終わったすぐ後から民族紛争、宗教紛争などいろんな地域紛争が頻発するようになりました。アメリカにとって世界の警察官という役割はもう重荷になってきたということです。

経済に関して、政府は余計なことをせずに、規制緩和と民営化をどんどんやって、市場メカニズムを法制化しておけばみんながハッピーになるんだ、みたいな能天気な議論がありました。それがやはり間違いだというのは、むしろ最近のエコノミストの常識になってきています。

資本主義は、昔マルクスが言ったような苛烈なものになった。図1のグラフをご覧ください。赤い折れ線は企業の経

図1 企業収益と勤労者所得の乖離



常利益、青い折れ線は雇用者報酬、つまり労働者の給料ですね。これは日本の変化を示した図です。20世紀までは、会社が儲かると給料も上がる、会社が儲からないと給料は減る、という両者の正の相関関係が存在しました。ちょうど2000年あたりを境に、企業の利益が増えても働く人間の報酬は減るということ、負の相関関係に転じていることがわかります。企業が儲かってても給料が減るといのは、いささか不正確な表現でありまして、給料を減らすから企業が

表1 日経連「新時代の『日本の経営』1995年5月」

	長期蓄積能力活用型グループ	高度専門能力活用型グループ	雇用柔軟型グループ
雇用形態	期間の定めのない雇用契約	有期雇用契約	有期雇用契約
対象	管理職・総合職・技能部門の基幹職	専門部門 (企画、営業、研究開発等)	一般職 技能部門 販売部門
賃金	月給制か年俸制	年俸制	時間給制
	職能給	業績給	職務給
	昇給制度	昇給なし	昇給なし
賞与	定率+業績スライド	成果配分	定率
退職金	ポイント制	なし	なし
年金			
昇進	役職昇進	業績評価	上位職務への転換
昇格	職能資格昇進		
福祉施策	生涯総合施策	生活援護施策	生活援護施策

儲かるという時代に移ったわけですから、それが収奪ということですよ。

これは別の面から言うところ、ステークホルダー資本主義から株主資本主義への変化ということです。株主資本主義の中で実際に起きたこと、収奪型システムの中で実際に起きたことというのは、雇用と労働の変化ですね。

表1は、今から30年前に日経連（日本経営者団体連盟）という当時の経営

者団体が打ち出したレポートの骨子です。日本経団連（日本経済団体連合会）の前身の一つであります。もういわゆる日本の経営をやめなすという宣言ですね。働く人を三つのカテゴリーに分けて雇用システムを再編するという話です。旧来型の終身雇用は一番左側。長期蓄積能力活用型。これは終身雇用で昇進もするし、ボーナスも退職金もあるというカテゴリーですね。真ん中が特定の能力を発揮する労働力で、これは期限の定めのある派遣労働みたいなイメージですね。もちろん期限の定めがありませんから退職金もないし、昇進もない。一番右側が一番典型的な非正規労働ですね。雇用柔軟型ということで、要するに単純な仕事、定型化された仕事をする人はこの雇用柔軟型で、有期雇用で昇進もない、ボーナスも退職金もないというカテゴリーです。雇用柔軟型というのは、雇う側から見た話でして、働く側から見れば、これはいつ首を切られるかわからない不安定な雇用を意味するわけです。

日本の場合は1990年前後にいわ

ゆるバブル経済が終わり、その後長期停滞が続き、2000年代の半ばからは人口減少も始まり、未来の見えない時代になりました。こういう変化というのは天災ではない、政策変更の帰結であります。さらに言うところ合成の誤謬の典型的な表れだと言うことができます。合成の誤謬というのは、ミクロに個々の人や組織、企業が目先の合理的な目標のために最善の選択をして、それを世の中全体で全部合算してみると、実はとんでもない非合理的なあるいは自己破壊的な結果をもたらす。これが合成の誤謬です。

合成の誤謬を防ぐのは政治にしかできない。経済というのは個々の人や企業が自由に行動するわけですから、上から一方的に力づくで非正規社員は作るなどか、力づくで給料を上げるとか、そういうことはできない。合成の誤謬を防ぐにはやはり政治の力で法律制度を作って、合成の誤謬を是正していくことが必要です。具体的に言えば、非正規を増やして給料を減らす、それは個々の企業ではしょうがない経営方針でしょう。

けれど安い給料で働かされる人間も、とりわけ若い人たちが人間らしく生きていくように、世の中の仕組みを整えていくというのは政治の仕事です。だから給料が減った分、政策でもって所得とか住宅とか教育とか医療とかみたいなものを補ってやらないと、自己責任では済まないわけです。逆に言うと、自己責任論で30年ほったらかしてきたから、世の中こんなふうになったわけです。貧困率も増えてきているということです。

次の問題は、情報革命です。先ほど第二次大戦後のデモクラシーの中で、メディアの普及と啓蒙の時代ということとを申し上げましたが、それがまたこの20年、30年で急速に崩壊していったわけです。今や新聞は超斜陽産業。テレビを見る人も本当に減っているという状況です。

そこでは何が起きるか。神なき時代の万人祭司主義と私は呼んでいます。万人祭司主義というのはマルチン・ルターが宗教改革時に唱えた理念です。要するにカトリックの神父さんという聖職者に教えてもらうのではなくて、みんな

が自分で聖書を読んで自分で考えましょう、神様と向き合いましょというのが万人祭司主義です。私はSNSというのはグーテンベルクの印刷術の発明に匹敵する500年単位の大きな変化をもたらしていると思っています。つまりルターが聖書をドイツ語に翻訳してグーテンベルクの印刷術でもってそれを大量に出版し普及させた。普通の人がドイツ語で聖書を読めるようになった。みんなが自分で聖書を読んで神様に向き合うようになった。これが宗教改革です。それがその後の近代ヨーロッパの一つの精神的な土台を作ったわけですね。

しかしながら今は神様のいない時代の万人祭司主義です。つまりSNSによって誰でも情報を発信できる。あるいは伝統的なメディア以外の源から情報を取ることができる。しかしながら今は神様がいません。謙虚さとか正しさとかそういうものが全く吹っ飛んだ状態でみんなが勝手に自分の信じていること、自分の考えをSNSでワッと撒き散らす。そういう時代です。私はプロテストタントのつもりでこの30年ぐらい間違っ

た権力を批判してきたつもりです。私は基本的に伝統的なメディアの人間でありまして、特に活字でもって自分の考えを述べる。たまにテレビでもしゃべる。だけれどそういう伝統的なメディアで事実とか論理みたいなものをふまえて物事を主張するというのは、SNSの時代に生まれ育った人間から見れば、ルターの時代のカトリックの神父さんみたいなもので、上から目線で何かわかりにくい言葉で偉そうなことを言っているぐらいにしか見えない。そういう時代ですともう啓蒙という活動は終わるわけです。

でもこういったことは日本だけではないですね。先に述べた経済におけるフォーダイズムの終わり、それから情報革命がもたらす民主主義に対する悪影響、こういったことは、今アメリカもヨーロッパもともに苦しんでいる問題であるということになります。21世紀に入ってなぜ民主主義がこんなにガタガタと動揺してきたのかということについて少し議論を紹介したいと思います。日本では2010年代安倍政権が続きまして、ドナルド・トランプ、ボリス・

ジョンソン、安倍晋三というのは、私は似たようなものだと思うのです。何が似ているかというと、オルテガ・イ・ガセットの『大衆の反逆』を読んだときに、ああそうだと思い当たることがあったわけです。オルテガに言わせると、大衆というのは慢心した坊ちゃん、要するにわがままな傲慢な子どもだというわけです。彼は自分でしたい放題のことをするために生まれ落ちた人間だというわけです。家族内ではひどい罪を含めて何もかもが結局は無罪となる。しかし坊ちゃん

は、家の外でも家の中と同じように行動できると信じている人間であり、取り消しが利かないものは何一つないと信じている。これです。別の言葉で言えば、公私のけじめがなくなったり、とりわけ政治家においては権力を私物化したりする。恣意的に自分の利益のために使う。これがジョンソンとかトランプとか安倍とかに共通した特徴です。最近アメリカやヨーロッパのいろんな雑誌を見ておきますと、選ばれた独裁性とか、あるいは多元的な抑圧体制みたいな、黒い雪みたいな感じの言葉

遣いをよく見ます。実際、独裁というのがヒトラーの時代の独裁とは違って、複数政党制とか自由な選挙とか、あるいは自由なメディアを前提としつつ、権力がどんどん肥大化し暴走していくというのです。それが今の独裁制だというわけです。

ただ、今のポピュリズムというのは、反エリート主義が反知性主義になる。それはさっき言った啓蒙の否定ということころとも重なるのですが、陰謀論にすぐく親近性を持っているわけです。あいつらが悪いから自分たちはこんなに苦しい、みたいなストーリーを作りたいがる。「あいつらが悪い」と言うときの悪者は、国によって違いますが、外国人移民であったり、学者専門家であったり、進歩的な価値観を持ったメディアであったりするわけです。多くの場合、人権とか、そういう普遍的な価値を否定していく。そしてナショナリズムと結びつきやすいという特徴もあります。だから Make America Great Again だし、ドイツのための選択みたいな形で、ナショナリズムに結びつくわけです。

3. これからどうするか

戦後80年、戦争の経験とか反省をもとにしたデモクラシーが本当に危うくなっているという話をきて、じゃあどうするのかという話になると、もう途端に私ら学者も困ったなとしか言いようがない。それが正直なところだ。やはり自分が生きている間に、こんな戦争の時代を目撃しようとは思っていないかったですね。

平和をどう守るか。これはもう私のような国際政治の専門家ではない人間が言えることは本当にはないのですけれど、やはり戦後の世界というのは何だかんだ言っても、アメリカが責任感を持って国際的なインフラを提供することで成り立っていた面があります。今回のトランプの行動を見ていて、アメリカがそういう国際的な公共財というか、国際的なインフラを維持することをやめるといふふうに宣言しているという感じが私にはするわけです。むしろロシアと手を組んで、力が正義だみたいな、力のある者の前には弱い者は

屈服するしかないぞなどという時代がこれから始まる気配です。

そのときに日本はどうするか。日米安保というのも決して盤石ではないですね。何かあったときにアメリカは助けてくれるというような前提はもう成り立たないかもしれません。そうするといろんなシナリオを考えなければいけません。アメリカの国防次官になる人が、日本の防衛費はGDP比で3%まで増やせと議会で言ったというニュースもありました。一応表向きではあっても、自由とか民主主義という普遍的な価値に基づいてある種の同盟関係を結ぶみたいなことを言ってきた。その前提も崩れていく中で、日本はどうするか。やはりプランBとかプランCとかを考える中で、アメリカはもう当てにならないから、ある程度自分でやるしかないとか、あるいは単独で自国を守るのはなかなか大変だから、韓国とか、あるいは石破茂首相がちよっと言ったように、東南アジアの国々と集団的安全保障みたいな仕組みを追求していくようなシナリオも考えなければいけないかということになります。

あるいはアメリカの予測不能な行動を前提とした上で、中国とどうやって信頼関係をつくっていくのか、アジアにおける緊張を少なくしていくかという課題に取り組まなければいけない。

私はやはり憲法9条、日本は二度と他の国に攻め込まない、という平和主義の理念はやはり戦後の世界秩序の、特にアジアにおける一つの柱であったというふうに思っております。だから平和主義を日本が変えると、これはこれで本当にまた緊張を大きくしていくわけですよ。そうするとやはりその意味での憲法を変えるべきではないし、専守防衛路線というのは、最近は旗色が悪いですけども、これはやはり続けていくしかないだろうと思うのです。

最後に結論です。アメリカに頼っていれば大丈夫という時代がもう終わったんだということをさせつけられた。それは日本人にとってはやはり良いきっかけになるだろうと思います。戦後80年にあたって、私たちはやはり二度と戦争をしてはいけないということをまず確認しなければいけないのです。それから戦後、

曲がりなりにも守ってきた民主主義、基本的人権を尊重する世の中の形、これは変えてはいけないということです。

本当にここから先はもう誰でも言える月並みな結論なので恐縮ですが、一つはアジアにおける韓国、台湾などの民主主義の国々との連帯を進める、あるいはこれから台頭してくる東南アジアの国々との協力を進めていく、と同時に中国との対話を継続する。だからやはりお互いに戦争だけはしないでおうという議論が続いていくしかないのです。アジアの国はこれからどこも人口は減っていくし、国内的にはいろんな問題を抱えているわけでありまして、気候変動みたいな大きな課題もありますし、共通の課題に対してむしろ建設的に協力していこうという議論を、日本から積極的に提起していく、アジェンダセッティングをしていくしかないと思います。

むしろ日本の脅威というのは外ではなくて内にあるわけでありまして、安全保障の問題を考えるときに、今から90年ぐらい前にあった狭義国防と広義国防という言葉をもう一回思い出す必要

があると思うのです。つまり狭義国防というのはやたらと武器、兵器、あるいは防衛装備品を買い込んで防衛予算を増やせば国防力が強まるという考え方です。これに対して武器をいっぱい持っても、それを操る人間がいなかったら国は滅ぶ、あるいは国民が例えば飢えに苦しむとか、貧困にあえいで病気になるっていかとか、そういう社会や経済の弱体性というものがあつたら、これは防衛なんかできないということ、総合的に国力というものを伸ばしていく、そのためにバランスの取れた安全保障というものを考えていくというのが広義国防です。そういう意味ではやはり今、広義国防という議論を我々はしなければいけないだろうと。ともかく人間がどんどん減っていくって、150年後ぐらいに、日本には人が一人何人いるのだろうかみたいな話ですからね。実際、2070年、日本の人口は8000万人で、そのうち12%、900万人ぐらいが外国人だというのは、国立社会保障・人口問題研究所が出している推計なのです。多分これよりもっと少なくなると思いますね、昨今の動

向を見ると。新生児の数が70万人を下回ることが2043年ではなくて、2024年に起きているわけですからね。というわけで、日本社会のサステナビリティというところから、安全保障を考えろという議論を、やはり私たちはしなければいけない。それは多分、韓国にも中国にも共通した課題だろうというあたりで、なんとか民間でも対話を続けていくという努力をしなければいけない、ということをお願い申し上げます。(2025年3月6日・公開講演会)

筆者略歴(やまぐち・じろう)

1958年生まれ、岡山県岡山市出身。政治学者、政治活動家。専門は行政学・現代日本政治論。1981年東京大学法学部卒業、同年東京大学法学部助手、1984年北海道大学法学部助教授、1987〜89年コネル大学留学(フルブライト奨学生)。1993年北海道大学法学部教授、2000年北海道大学大学院法学研究科教授、2014年法政大学法学部教授、北海道大学名誉教授。

公開講演会記録

トランプショックと中国の
第四次産業革命

多摩大学客員教授 結城 隆



はじめに

4月、トランプ政権の関税ショックが世界を襲った。世界すべての国を対象に、10%の基本相互関税率を定め、各国の貿易総額を貿易赤字額で除した数字の50%を相互関税率とするものだ。これにより、日本の対米輸出関税は24%に跳ね上がる。ベトナムは46%だ。多くの国は交渉による関税率引き上げを試みている。トランプ政権はこうした動きを踏まえ、90日の実施猶予期間を設けた。唯一報復措置に打って出た

のが中国である。一步も退かない、と外交部は言い、商務部は対米報復関税を課した。両国の関税引き上げ率はエスカレートする一方であり、四月中旬には、中国側が125%、米国が145%まで引き上げる事態となった。この時点で中国側は、「もはや冗談にすぎない」として、無視の構えに転じた。しかし、中国をはじめとする世界各国との関税交渉の行方はまだ見えない。トランプ政権の関税政策を、中国のメディアは「単純・粗暴」と切って捨てた。1兆ドルに上る貿易赤字を削減し、関税収入を800億ドルから法人

税収入に相当する5000億ドルまで増やし、これを法人減税に充当すると同時に、海外に生産拠点を移していった米国企業のオンショアリングを促すのが目的だ。また、イーロン・マスク氏が率いる政府効率化省は、7万人に及ぶ政府職員削減と、経費削減により2兆ドルに上る財政赤字を1兆ドルまで削減しようとしている。いずれにしても荒療治であり、大きな副作用を伴う。これがMAGA（米国を再び偉大に）の実現につながるかどうかも定かではない。むしろ、インフレの高進と成長率の低下につながると懸念する声

の方が多し。もっとも「背広組（既存のエスタブリッシュメント）」に対する痛打に歓声を上げる支持者も依然多いことは事実だが。

また、本文で見るように、中国の抵抗力は強靱である。中国政府の報復措置は、関税引き上げだけではない。米
国経済の急所を突く的確な措置も多数繰り出している。むしろ中国の党・政府は、これを機に米国の弱体化と孤立化を図ろうとしているようにも見える。その意味、トランプ政権の「関税棍棒」は、こと中国に対しては空振りとなる可能性が高い。むしろオウンゴールとも言えるかもしれない。また、中国では、新エネルギー車だけでなく、AI、ロボット、ドローンを活用した「低空経済」の構築、さらには、新疆ウイグル自治区の砂漠地帯での大規模な太陽光発電と電力の超高压送電網の建設も急ピッチで行われており、第四次産業革命とも言えるべきパラダイムシフトが進められている。トランプ政権は覆水を盆に返えそうとしている。一方の中国は過去20年にわたるハイパーファイ

ナンスによる成長から、先端技術による成長へと大きく舵を切っている。以下、これらの状況を見てゆきたい。

弱い犬ほどよく吠える

実質的なデカップリングと言える。4

月2日、トランプ大統領は「国際緊急経済権限法（1977年施行）」に基

づく、全世界の国・地域を対象とした相互関税を実施すると発表した。中国に適用されるのは34%。3月に適用された対中追加関税20%と合わせると54%になる。それからわずか10日間で、報復合戦は過熱し、米国の対中輸入関税は145%に、中国側は125%となった。この間、株式市場では先行き懸念が強まり、4月6日、米国株価は暴落、約5兆ドルの時価総額が吹き飛んだ。その後株価は回復したもの、市場は今もなお不安定な動きを続けている（表参照）。

表 米中関税引き上げ合戦の推移（各種公開情報を基に筆者作成）

日付	内容
2月1日	米が中国に対し一律10%の追加関税。
2月4日	中国が下記対抗措置。 ①米国産石油・天然ガスに15%、原油・農業機械・大型自動車（含ピックアップトラック）に10%の追加関税。 ②タンクステンなど軍事転用可能な鉱物の対米輸出規制。 ③米企業2社をエンティティリストに追加。
3月3日	米が中国に対し、さらに10%の追加関税。
3月4日	中国が下記対抗措置。 ①米国産小麦・トウモロコシ・鶏肉に対し15%の追加関税。大豆・豚肉・牛肉・水産物・果物・野菜・乳製品に対し10%の追加関税。 ②米企業15社を「軍民融合企業」に認定。軍事転用可能製品を禁輸。 ③米企業10社をエンティティリストに追加。
4月2日	米が中国からのすべての輸入品に34%の関税。対中輸入関税は54%に。 米がすべての対米輸出国に対し10%の基本関税率を適用。これに加え、「対米貿易黒字額」÷「対米貿易総額」×50%の算定方式に基づき追加の相互関税を上乗せ。対中関税率は74%に。 中国からの価格800ドル以下の小包郵便に対し1件あたり30%ないし25ドルの関税（5月2日より実施）。
4月5日	中国が下記対抗措置。 ①中国が対米輸入関税を一律34%に引き上げ。 ②米企業16社を「軍民融合企業」として輸出管理リストに追加。軍事転用可能製品を禁輸。 ③米企業11社をエンティティリストに追加。 ④鶏肉製品・穀物を扱う米企業6社の資格停止。 ⑤米国製医療用CT機器に対するダンピング調査を開始。 ⑥WTO提訴。
4月8日	米が中国に対し、さらに50%の追加関税。対中輸入関税は124%に。
4月10日	中国が米輸入品に対し84%の追加関税。対米合計関税率は最大125%に。
同日	米が中国に対する関税率を145%に引き上げ。一部輸入品については245%に上ると公表。
4月11日	中国政府「これ以上の関税引き上げは、もはや冗談にすぎない」として報復措置を停止。

米中双方の対応を見て気づくのは、米側が判で押したように関税率引き上げの一本槍で攻めているのに対し、中国側は、米側の痛点ともいべきところに、的確なパンチを放っていることだ。掛け

金を引き上げることによってゲームから相手を降りさせようとしているのがトランプ政権であるが、実は交渉カードを握っているのは中国である。

まず、中国製品に対する米国の輸入依存度が極めて高いことだ。米国で消費される電子レンジ、LED照明機器の90%以上、スマホや扇風機の80%が中国で製造されている。アマゾンが販売する商品の70%が中国製品である。パソコンも70%が中国製だ。便器も50%が中国製である。トランプ関税が米国内販売価格に反映されるのは6月頃からだが、そうなるこれらの製品価格は倍以上になる。相互関税が発動されるや否や、米国では家電製品のパニック買いが広がったと伝えられている。中国製TVは品薄状態に陥り、量販店を数軒回ってやっと手に入れた消費者もいると、『ウォールストリートジャーナル』が伝えた。乗用車販売台数もトランプ2・0以前の月間120万台から以後は130万台を超えている。トランプ1・0のときに行われた対中輸入関税引き上げにおいて、引き上げ分

の92%が米国の消費者に転嫁された。トランプ大統領の関税棍棒が直撃するのは米国の消費者である。

次に、中国の対米輸入依存度は、トランプ1・0での第一次米中貿易戦争以降、趨勢的に低下している。中国のGDPに占める米国からの輸入シェアはこの10年間で9%から6%まで低下している。その一方で、2022年のRCEP（地域的な包括的経済連携）協定発効を機に加盟国との貿易額は増加している上、アフリカや中南米との貿易も増加傾向にある。仮に対米輸出が減少しても矛を収めさせるだけのマグニチュードはないだろう。トランプ1・0のとき、米国産大豆の関税率が引き上げられた結果、中国内では大豆渾が不足するという事態が起こったが、以後、ブラジル産大豆へのシフトが行われた。食糧の増産も図られており、昨年の穀物生産は7億トンと過去最高水準となった。エネルギーも、天然ガスではロシアからの安定供給が続いていることに加え、カタールのLNG、サウジアラビアの原油など「頼れる」供給国を確保している。

中国が米国から輸入するLNGのシェアは2021年の11%から昨年には6%まで低下している。中国が報復措置を講じて、浴びる返り血は少ない。

最後に、半導体など先端技術分野において、中国の対米キャッチアップが猛烈な勢いで進展していることである。ファーウェイは2ナノメートルの半導体開発に成功したと言われる一方で、家電や車載用のレガシー半導体の世界シェアは30%を超えた。1月にリリースされたDeepSeekのAIアプリの性能はChatGPTを凌ぐ。車載用電池も中国製が圧倒的であり、全固体電池も量産体制に入りつつある。ドローンの世界市場シェアは70%に上る。ウクライナ軍が使用しているドローンの部品はほとんどが中国製ともいわれる。急所を握っているのはむしろ中国である。弱い犬ほどよく吠える、といわれるが、トランプ政権の常軌を逸したようにも見える、対中輸入関税引き上げは、エスカレーション・ドミナンスが米国側にあるという思い込みに加え、他に交渉カードを持たないという米国

の弱みの裏返しであるとも言える。

多数のカードを持つ中国

一方の中国は、関税引き上げ以外に、多数の交渉カードを持っている。

貿易収支ばかり問題視するトランプ政権だが、サービス収支は中国側の赤字である。中国の対米サービス輸入額は昨年550億ドルに上った。収支は中国側の320億ドルの赤字で、中国の貿易黒字の10分の1にすぎない。しかし、これには、在華の米系法律事務所、会計事務所、コンサル会社が稼ぐフィー、製造業の子会社が親会社に支払うロイヤルティー、ハリウッド映画の配給料、そして在米留学生が支払う授業料が含まれる。中国政府はすでに国内でのハリウッド映画の上映の制限に動いているし、留学を検討している学生は、米国よりも英国を愛好し始めている。ロイヤルティーや利益送金には、外貨管理局の認可が必要であり、そのためには税務調査を受けなければならない。貿易戦争には直接関係ない

が、2024年、四大会計事務所の一つPWCが当時最大手の不動産開発業者だった恒大集団の財務報告に適正意見を付したかで罰金と業務停止処分を受けた後、大量の離職者が発生したという事案もある。

また、在華米国企業の売上も、在華米国法人の売上と在米中国法人の売上の差額は、2022年で4905億ドルの米国側の黒字であり、同年の米国の対中貿易赤字額3800億ドルを上回っている。米国企業が中国で作って売る、あるいは口八丁手八丁でフィーを稼ぐ金額が貿易赤字よりも多いのである。在華米国企業を「締め上げれば」貿易赤字問題は大きく軽減されるという見方もできるだろう。税務調査や不正競争防止法に基づく査察、様々な許可取得手続きの厳格化、米国企業の中国外でのM&Aの審査強化など、米系企業の活動に「法による」制限を加える方策に事欠かない。

米国の孤立化を図る

世界第2位の経済大国となった中国の国際的影響力も無視できない。2025年4月中旬、習近平国家主席はマレーシア、カンボジア、ベトナムのASEAN3か国を訪問した。アメリカが課す相互関税は、それぞれ24%、49%、46%であり、カンボジアに課された相互関税率が最も高い。ベトナムは、米国からの輸入関税をゼロにする、あるいは、ボーイングの旅客機を大量購入するといった譲歩案を提示し、「お目こぼし」を得ようとしているが、これに釘をさすのが目的かもしれない。中国は自国産旅客機C909のベトナム便の開設に踏み切った。マレーシアは今のところ静観の構えだが、ASEANのリーダーであるシンガポールやインドネシアと連携し域内貿易の拡充をもくろんでいる。ASEAN最大の2億人の人口を有するインドネシアには十分な内需拡大の余地もある。カンボジアにはさらなる中国の経済支援が図られるだろう。4月にはまた、スペインのペドロ・サンチェス首相が北京を訪問し、習近平国家主席と会談している。ASEA

Nだけでなく、EUとの連携強化も模索されているようだ。2024年10月、EUは中国のEVメーカーに対する政府助成金が不当であるとして、輸入関税の引き上げを実施したが、これも2025年4月には輸入最低価格を設定する措置に代わった。また、湾岸諸国との連携も進んでいる。一帯一路構想参加国の中でもとりわけアフリカ諸国との経済関係拡大も図られる。

トランプ政権の相互関税は全世界を対象にしている。マダガスカルですら47%の相互関税が課される。マダガスカルのが米国にとっての緊急事態なのか。最大の「被害者」である中国は、こうした国々の怨嗟の声を背景に、逆に米国包囲網を形成しつつあるように見える。

なお、トランプ大統領は、パナマ運河の両岸にある港湾運営会社が李嘉誠の長江実業集団傘下の企業に保有されていることが安全保障上問題ありとして、米投資ファンド最大手のブラックロックを通じて、右記を含み中国と香港を除く全世界120を超える港湾運営会社

を234億ドルという破格の安値で買収しようとしている。米国政府からの長江実業集団に対する強い圧力があつたことをうかがわせるデールだ。パナマでの駐兵も検討されているようだ。中国政府の介入により契約が実施されるかどうかは未知数だが、中国政府は、パナマ運河に頼らない大西洋と太平洋をつなぐ物流ルートの構築を検討している。

2024年、中国の援助によってペルーのチャンカイ港に完成したコンテナターミナルとブラジルのポルト・ド・アス港を貨物鉄道で連結するプロジェクトである。中南米の太平洋岸から積み出される貨物はいったん北米の主要港で積み替えられていたが、チャンカイ港の運用開始によって、南米とアジアの航海期間は35日から25日に短縮される。海運コストの削減効果は大きい。中南米はアメリカにとって「裏庭」であるが、中国支援によるインフラ投資は、この地域における米国の長年にわたる影響力を根底から覆すものとなるかもしれない。

トランプ政権は、こうした状況を理解し始めているようだ。2025年4月

半ば、相互関税の実施は90日間の猶予が定められた。4月末になると、対中輸入関税を60%台まで引き戻す可能性も示唆されるようになっていく。外交面でトランプ政権が力を入れているのがウクライナでの停戦実現だが、これには中国によるロシアへの働きかけも不可欠である。中国市場への依存度の高い米国企業の政権への働きかけも活発なようだ。夏場にかけて落としどころを探る米中の水面下での交渉が加速してゆくだろう。ひょっとすると、大山鳴動して鼠一匹という結果に終わるかもしれない。ただ、関税率で米国が譲歩したとしても、これは米中経済戦争の第1ラウンドにすぎない。衰えつつあるとは言え、米国の覇権維持への関わりは強い。

全方位消費拡大により輸出減に備える

相互関税が今後どのようなデールに結びつくのか予断を許さない。中国政府は米国向け輸出減少に備えるべく、内需拡大策を進めている。2025年

3月に開催された全人代での政府工作報告では、財政政策は前年の「積極財政」から2025年は「さらなる積極財政」とトーンがアップされた。中央政府によるインフラ投資額は5%拡大され7350元となった。期間50年の超長期債を含む特別国債発行額は前年比80%増の1兆8000億元、地方政府債発行は、地方政府傘下の城市建设投资公司の債務交換を含めると6兆4000億元に上る。これらの資金は、不動産関連の地方政府の不良債権処理に加え、新産業育成のための助成金、消費振興策にも充当される。これにより、中国政府の財政赤字額のGDP比は、2024年の3%から4%に上昇する。これについて、党・政府内では相当激しい議論が行われたと仄聞するが、2024年11月の米大統領選においてトランプ氏が勝利したことが、積極財政派にとって追い風となったのではないか。積極財政政策においてとりわけ重視されているのが内需拡大である。2020年から始まった不動産不況に加え、コロナ禍の中でのロックダウン、それに加

えてテック企業に対する規制強化により、富裕層や中間層の消費が大きく減退した。上記に伴う雇用の伸び悩みがそれに拍車をかけた。この流れを止めるべく、2024年から開始された家電と自動車を対象とする「以旧換新（買い替え助成）」策が展開されているが、2025年はさらにそれがスケールアップする。対象はスマホやパソコンなどさらに広げられる。新エネルギー車の場合、中央政府と地方政府の助成金にメーカーの値引きも加えれば販売価格は5万元程度下がるようだ。これに投じる中央政府予算は3000億元に上る。これに各地方政府が発給する様々な用途の消費券交付が加わる。消費者金融も貸出条件の緩和に踏み切った。期間7年の消費者ローンまで出てきた。貸出金利は3%を割り込んでいる。各省・市の消費新興策は、全人代以降170件に上る。消費が弱含んでいる理由の一つが不動産価格の下落に伴うマイナスの資産効果だが、2024年5月来の対策により、2025年に入って底打ちの気配も見えだした。

第四次産業革命が始まった

2025年第1四半期のGDP成長率は大方の予想を上回る5.4%。消費の伸びは5.9%と久方ぶりに5%を上回った。様々な対策によって、ようやく消費にも薄日が差しつつある。EVの生産・販売の伸びは堅調を維持している。相互関税によって、中国のGDP成長率には1.2%の下押し圧力が働くという試算もある。中国は内需拡大と輸出先の多様化、EV、AI、ロボット、そして新エネルギーに関わるインフラ投資の拡大によってこれをカバーしようとしている。4月19日には、北京で世界初の二足歩行ロボットによるハーフマラソン大会が開催された。AIアシスタント開発のDeepSeekが3月にリリースしたDeepSeek V3-0324の性能は世界トップとなった。一方、外資との合弁事業にあぐらをかき、EVの開発に後れを取り、この数年軒並み業績を悪化させてきた中央国有自動車メーカーでは、中国第一汽車、東風汽車、長安

汽車の大合併構想も組上にあるようだ。有象無象を含めて300社近くある自動車メーカーは中期的に7社程度にまで集約されるという見方も出ている。新旧交代が激しい勢いで進んでいる。

これら新産業は、産業・経済のみならず社会も大きく変えるばかりでなく、新たな市場の創設にもつながる。また、14億人の市場を持つ中国は、トライ&エラーを重ねつつ猛烈なスピードでその社会発展・産業実装を進めている。この数年以内に、パソコンやスマホでのAI搭載率は80%にまで達するとの見通しもある。また、人材採用、不動産購入、旅行、保険・金融分野での使用も実用段階に入っている。AI開発をうたう企業数は50万社を超えた。中国ロボット業界の先端を行く杭州の宇樹科技は、工場、倉庫、ショッピングセンター、介護施設などで二足歩行ロボットの実用実験を開始している。しかも、価格は米国製品の10分の1にすぎない。国家統計局によれば製造業現場で使われるロボットの生産台数は今年第1四半期15万台、サービス業（主

に物流）で使用されるロボットは25万台に上っている（これには自動化機器も含まれる）。開発や応用に必要な技能人材を育成するために今年中に全国18の高等技術訓練学校が開設される。第四次産業革命の幕開けといっても過言ではない。先端技術の実用化が急速に進んだ大きな理由が、国を挙げてのビッグデータの収集である。そのため電力開発も急ピッチで進められている。データセンターは膨大な電力を必要とするためだ。

新疆ウイグル自治区の砂漠地帯に設置された大規模太陽光発電施設で生まれた電力は超高压送電システムにより沿岸部に送電される。中国の総発電能力は米国の2倍に及ぶ。電力消費のかさむデータセンターの拡充には十分な能力である。中国が世界のデータセンターになる日も遠くはないだろうし、第四次産業革命の推進を大きく後押しすることになるはずだ。

ドイツの凋落から見えるもの

こうした変転著しい外部環境において、日本はどのように処すればよいのか。参考になるのがドイツである。第二次大戦敗戦国であるドイツは、東西分裂という悲劇に見舞われたものの、米国のマーシャルプランによって戦後復興を果たし、安全保障を米国に委ねつつ（米国の在外基地・駐兵数は日本に次ぐ）、巧みな東方政策を通じてソ連との関係を改善、製造業の発展と輸出拡大によって欧州随一の大国となった。目下GDP規模では日本を抜いて世界3位。しかし、ウクライナ戦争の勃発により軍事力の弱体が露呈し、ロシアからの低廉豊富なエネルギー資源の供給が断たれ、製造業では中国の猛烈なキャッチアップの中、競争力の低下に苦しんでいる。

ドイツが凋落しつつある理由の一つが米露関係の軋てではないかと思う。2度の大戦で激しい戦火を交えたとはいえ独露の関係は緊密なものだった。19世紀ロシアの工業化を支えたのはドイツ人実業家である。両国の最後の皇帝となった、ニコライ二世とヴィルヘル

ム二世は従弟同士だった。第一次大戦後ドイツの再軍備を支えたのはソ連だった。また、ソ連にとってドイツは革命を西に向けて輸出する窓口でもあった。冷戦時、ドイツは革命輸出の最前線にあり、ソ連との関係は米ソ対立の枠組に縛られていたものの、両国は武力不行使に関わる協議を水面下で進め、貿易関係も拡充されていた。両国の経済関係が緊密度を増したのは1989年のベルリンの壁崩壊、その後の東西ドイツ統合である。ドイツ企業により旧東独、東欧諸国、そしてロシアへの直接投資は急増した。そしてメルケル首相の下、ドイツの産業経済はロシアとの緊密度合いを高めていった。

独露蜜月はウクライナ戦争の勃発と、その年9月のノルドストリーム爆破事件によって終焉を迎えたが、それは、ドイツ経済凋落の始まりでもあったと言えるだろう。これによってドイツは高価な米国産LNGの輸入を余儀なくされ、化学工業は大きな打撃を受けた。折から新築住宅の燃焼系暖房機器の使用が禁止されたことや、持続的に進む

少子高齢化による労働力不足もあって、住宅価格は高騰した。厳格な財政規律と東独統合に伴う財政負担もあって、インフラ更新投資が滞ったため、正確無比だったドイツの長距離鉄道の定時運航率は7割まで低下している。コロナ禍の折、新規感染者数をファックスでやりとりしていたのは、先進国の中では日本とドイツだけだったという。防衛費の抑制により軍事力の低下も著しい。ウクライナ戦争勃発時、ドイツ政府がウクライナ支援のために行ったのは軍用ヘルメット3000個の供与だったことにNATO諸国からは失笑が漏れた。メルツ政権は防衛費とインフラ投資を拡大すべく、これらを別枠で管理することにより財政赤字GDP比3%以下を維持しようとしているが、いかにも小手先の対応である。

2025年2月に実施された議会選挙では右派のAfD（ドイツのための選択肢）が躍進したが、この根底にあるのは、対露融和に対する国民（とりわけAfDの地盤でもある旧東独地域）の抜きがたい欲求と言えるのではないだ

ろうか。ドイツと日本の状況は無論大きく異なる。しかし、隣の大国への敵視が、どれだけ自国経済の足を引っ張ることになるのか、それが様々な国内の課題とシンクロナイズし経済・社会問題を増幅してゆくものであることを如実に示しているのではないかと思う。これは日本と中国、ロシアとの関係についても言えるのではないだろうか。

「ならぬものはならぬ」

一方、日本はどうか。2025年4月にJETROが開催したトランプ関税に関するウェビナーの視聴者数は7000人を超えたという。企業の関心は極めて高い。石破茂首相は丁寧な説明と説得をとことん行っているが、そもそも相互関税という無理筋を掲げるトランプ政権にとって、説明などどうでもよいのではないだろうか。日本から最大限の譲歩を引き出し、それを世界の「見本」とするのが目的だろう。何を日本に上納させるのか、トランプ政権の関心はそこにしかない。

日本政府は1964（67年）のケネディラウンド以来、繊維交渉、プラザ合意につながった通貨交渉、自動車交渉、その後の半導体交渉、非関税障壁問題を対象とした構造協議など、国の産業に関わる重要な交渉においていずれも譲歩を余儀なくされてきた経緯がある。半導体協議などは、協議というよりも一方的な「命令」だったとの回顧談を当時の交渉担当官だった方から聞いたことがある。今回もその轍を踏むのか。また、隣の大国との良好な関係が国運を左右することはドイツの例からも明らかである。

筆者の郷里である福島県の旧会津藩が藩士の子弟教育のために定めた「什の掟」の最後に「ならぬものはならぬ」という言葉がある。ダメなものとはダメ、という意味だ。国益の根幹に関わる事項については断じて妥協してはならない。最大の同盟国に対する丁寧な説明は無論大切ではあるが、それに耳を傾ける相手ではないとすれば、自らを守り、発展させる中長期の戦略立案とその実行が不可欠である。関税対策助成

金や交付金といった小手先のバラマキ対策などすべきではない。政府は米国からの輸入拡大に資するような製品を鵜の目鷹の目で物色しているようだが、売れないものは売れないのである。そんなことよりもEUのように米巨大テック企業に対する規制強化を打ち出すべきだろう。また、熟練工が不足し建設コストも高く、サプライチェーンも十分な米国に敵えて投資するのも愚策である。25%の相互関税により対米輸出が落ち込むのであれば、それもやむなしと割り切り、新たな市場開拓を行えばよい。また、消費者のニーズにマッチした良い製品は値段が高くて売れるものだ。実際、ASEAN各国でナイキの靴を製造しているOEMメーカーは関税引き上げに動じる気配は微塵もない。「だって、他にないから」とメーカーの社長は言う。

そして、なによりも喫緊の課題である防災対策や老朽化したインフラ施設の更新に取り組むべきである。そして、140か国の一帯一路構想参加国との連携を強化している中国の動きも参照

し、あるいは賛助することにより、パートナー国をさらに増やしてゆく努力も不可欠だと思うし、それを通じた日中関係の改善も等閑視してはならない。また、停戦の気運が生まれていることを踏まえ、対露経済制裁の在り方も見直してゆくべきだろう。

トランプ関税に妥協することは、「失われた30年」を経験してきた日本の経済・産業にとってとどめの一撃となるかもしれない。こうした事態を避ける第一歩は「ならぬものはならぬ」の教えだと強く思う。

（2025年4月17日・公開講演会）

筆者略歴（ゆうき・たかし）

福島県郡山市出身。一橋大学経済学部卒。1979年日本長期信用銀行勤務。1999年ダイキン工業経営企画室勤務。2013年から荒井商事非常勤顧問。2021年から多摩大学経営情報学部客員教授として中国経済、ユーラシア論を講じる。

『世界経済評論』などに寄稿。

公開講演会記録

マジックのご縁でつながる
商工会経済人たちとの交流

——マジック脳®になろう

オーロラ・ビジネススタイル研究所代表 野口雅代

はじめに

今回、国際善隣協会様からのご縁で講演の機会をいただき、心より感謝申し上げます。私は全国の商工会議所や企業などで講演やセミナーを行っておりますが、特に印象深かったその土地や人とのふれあいエピソードをお話します。

■北海道・東北編

北海道の網走商工会議所で会議所主催のビジネス講座を行ったとき、平日の夜で全員が揃ったのは初めてだと聞きました。終了後の懇親会にも遅くまで参

加してくださったのが嬉しかったです。

翌日は観光に連れて行っていただき、旧網走刑務所では放射状に建つ五つの舎房の中心に立って全てを見渡すという体験をしました。網走の駅名看板だけが縦書きで、それは刑期を終えた受刑者が見る初めての公共の場で、横道に行かず真っすぐに生きなさいという意味があると教えていただきました。流水を体験できる施設ではクリオネを見たり、濡れたタオルを振り回すと凍るなどの面白い体験もしました。知床では、流水に乗ったり、船で沖に出てゴマファザラシにも遭遇しました。オ

ホーヅク海の新鮮な海の幸を使った海鮮丼はボリュームがあって、とても美味しかったのを覚えています。

青森県の五所川原法人会では、ビジネスマナーとコミュニケーション研修を2年連続で行いました。若い方が中心の活気ある会で、近くに立たち佐武多の館があり、その迫力に感動しました。また、吉幾三さんの出身地である五所川原市金木町にある太宰治記念館は、貸金業の時代もあって立派な金庫が残されていたのが印象的でした。津軽三味線会館では本場の津軽三味線を堪能しました。



青森県商工会連合会でも「お客様と心が通うサービス」「また来たいと思わせる接客術」などをテーマにお話ししました。観光では八甲田ロープウェイに乗って景色を一望し、酸ヶ湯温泉に行きました。夜には東奥日報社の方に青森ベイブリッジやねぶたが飾ってある郷土料理店に連れていっていただき、さまざまな料理を楽しみました。が、中でもつゆ焼きそばが格別に美味しく「東京でも食べられればいいのに」と思ったほどです。

秋田県では、大館商工会議所に2度呼んでいただき、担当者と受講生に活気があり、秋田犬ハチ公のふるさとに触れて心温まる体験をしました。

また、秋田商工会議所青年部でも講演を行い、懇親会ではきりたんぼ鍋と凍結酒「高清水」が印象的でした。暖かい鍋に氷状の溶けるお酒がとても美味しかったです。これをご縁に、大曲花火大会にも誘っていただき、新幹線で隣に座っていた方が花火会場の栈敷席でもすぐ近くにいらっしゃるという偶然に驚きました。

山形県の新庄商工会議所では研修を行い、終了後、会長に「千利休が訪れた」という由緒ある茶室に通していただき、昔の方は体が小さかったため非常に低い入口を屈んで入ったという貴重な体験をしました。

知り合いの歯科医院では開院15周年の講演後、熊野神社を訪れました。絵馬掛所にフクロウの赤ちゃんがいて、「40数年ここにいるが、初めてのこと」と話していたら宮司さんも来て、今までにないことだと驚いていました。昼間に出ない野生のフクロウに出会え、話をしている途中で白い産毛が風に舞っていくのも見られて幸運な体験でした(写真1)。

岩手県の一関商工会議所や岩手県経営者協会にも呼ばれました。岩手に住む知り合いが私の講演をどうしても聞きたいと、ホテルの扉の外にいたようですが、聞こえず断念し、懇親会で「外からでも聞きたかった」と言われてありがたく思いました。

宮城県の塩釜商工会議所では、仙台・宮城デスティネーションキャンペーンのシンボルマーク、宮城県観光PR担



写真1 山形県熊野神社

当課長の「むすび丸」をマジックで登場させたり描いたりしたので、とても喜んでいただけました。

翌日は鹽竈神社を訪れ、ちょうど塩釜港が一望できる場所で虹を見ることができました。案内してくださった会長は、「70年ここにいるが、こんなに綺麗な虹は初めて」とおっしゃっていました。後日、その虹の写真(写真2)を担当の方に送ると、光源氏のモデルといわれる源融みなもとのとわらがこの地を訪れ、塩釜の風景を模した庭園を京都に造ったという逸話を教えていただきました。

ちょうどその年が光源氏生誕千年の年でした。

老舗の菓子店でいただいた「なまどら焼」もとても美味しかったです。デスティネーションキャンペーン中ということもあり、アンテナショップを訪れてさまざまな名物に感激しました。担当の方が後日東京に来られた際、新宿・紀伊國屋書店前で待ち合わせをしました。そのとき、ちょうど私が『日経ビジネスアソシエ』でブルーオーシャン戦略の実践者として特集された号が出ており、その場で本を買ってくださって「目の

前にいる人が雑誌に載っていて不思議な感じ」と言われたのを覚えています。

その他、気仙沼法人会では接客術に関する講演、石巻法人会では「相手の心を惹きつける六つのポイント」について講演しました。石巻商工会議所では従業員表彰式で心の健康やあり方などをお話ししました。最後のマジックで皆さまが笑顔で手拍子をしてくれた姿が今でも目に焼き付いています。

石巻には震災後5年が経ったクリスマスに、仮設住宅を20か所ほど回るイベントにお邪魔しました。子どもたちや高齢の方々が喜んでくださって嬉しかったです。震災前に見た町の姿とは大きく変わっていて驚きましたが、少しでもマジックで元氣になってもうえたらなとの思いでした。

震災後半年ほど経った頃に、仙台、古川商工会議所女性会の方から声をかけていただき、バスで内陸部に集まった皆さんに講演を行いました。終了後、隣の部屋で開かれたお茶会にもお誘いいただき、各支部の方々の生々しい体験談を伺いました。私には何もできな

い無力感がありました。が、「講演を聞いて、これから頑張ろうという気持ちになりました」と言っていただけのは本当に嬉しかったです。後日年賀状もいただき、来た意味があって良かったと思いました。震災時の炊き出しで山形の新庄商工会議所の担当の方に「いい講師はいませんか」と尋ねられ、私を推薦していただいたというエピソードも後から聞き、本当にありがたいご縁に感謝しています。

新潟県の名立商工会や三条商工会議所、二和地区商工会、新潟県経営者協会などにも呼んでいただきました。

先日行ったばかりの二和地区では「何のためにその仕事をするのか」を考えた上で行動すると結果が大きく変わる、というお話をしました。あり方が大事であると。具体的には「美味しいケーキを作って皆さんに喜んでもらう」と意識することで以前より充実感を得られたという、福井県の武生商工会議所のエピソードをご紹介したところ、受講生の方がそのケーキ店にバイスデーケーキを注文したそうです。



写真2 宮城県塩竈市

また、新潟県経営者協会の担当の方からは「何百回も担当しているが、マジックを取り入れて楽しみながら学べるのは初めて。今までで一番よかった」と言っていたのが嬉しかったです。経営者協会には新潟市や長岡市にも呼んでいただき、長岡の朝日酒造の方と東京でお会いしたご縁から、さまざまな場所を案内してもらいました。

福島県の天栄村商工会や須賀川商工会議所の経営革新塾でも講演しました。須賀川商工会議所の局長とは東京ビッグサイトのイベントで知り合い、呼んでいただいたり、東京のお店を紹介したりといったお付き合いが続きました。震災後には商店街の助成金が見える会社をおつなぎして「街が潤いました」と皆さんに喜んでいただけたこともあります。

■関東編

初めて地方に呼んでいただいたのは、茨城県のかすみがうら市商工会です。ありがたいことに2年連続で呼ばれたのですが、2年目はアクシデントで行けなくなってしまう、後日どうしても直接お



写真3 茨城県かすみがうら市

詫びをしたくて駅からタクシーで40分ほどかけて伺いました。会長をはじめ皆さんが温かく迎えてくださり、それから毎年バス旅行やイベントにも声をかけていただくなど、親しくお付き合いさせていただきました。茨城空港ができた際もイベントに呼んでいただき、霞ヶ浦で7色に彩られた帆引き船を船上から見ると体験もさせてもらいました(写真3)。「にっこり」という新種のナシや大きなイチゴを送ってくださったり、熊本地震の際には知り合いにお米を送ってくださったりと、ありがたいことです。

2025年4月で20年目になります。が、交通遅延もなく、行けなかったのはこの1回だけで、不思議なことに、これがご縁で深くお付き合いができたこと、本当に感謝しかありません。

同じく茨城県の笠間市商工会、潮来市商工会でも講演し、土浦商工会議所では「おもてなし」などをテーマにお話ししました。

栃木県の日光商工会議所でも講演を行い、翌日は湯西川温泉の宿に泊まり、オオサンショウウオをいただいたりとお楽しみいただきました。その後、担当の方が東京のマジック教室にも来てくださいました。

群馬県の太田商工会議所、埼玉県の秩父商工会議所、上尾法人会などでも講演しました。秩父商工会議所では神社の境内での開催が印象的でした。「毎年12月2、3日に行われる秩父夜祭りは寒いですが、ぜひいらしてください」と言われ、今年こそは行ってみたいと思っています。

千葉県鴨川市商工会で講演した際は、近くの漁港や棚田を案内していた

できました。担当の方が山武市へ異動となり、そこでも呼んでいただき「成功する経営者はここが違う」といったテーマで講演をしました。山武市はイチゴが有名とのことで、今度はイチゴ狩りに行きたいと思っています。

東京商工会議所の墨田支部や台東支部、神奈川県神奈川労務安全衛生協会（鶴見支部）などでも同様に講演の機会をいただきました。

■東海・近畿編

静岡県の磐田商工会議所、静岡市清

水商工会、雄踏町商工会、南伊豆町商工会などでも講演・研修を行いました。雄踏町商工会では地元のような重をご馳走になり、担当の方が東京までマジック教室を受けに来てくださったのが嬉しかったです。

南伊豆町商工会での講演後、担当の方が夕日が沈む海の絶景ポイントに連れていってくれました。「こんなに綺麗な夕日は2、3回くらいしか見たことがない」と言うほどの光景で、とても貴重な体験でした（写真4）。

静岡市の東京事務所の方々ともご縁があり、11月に毎年開催される大道芸大会を案内していただいたり、東静岡にあるガンダムの等身大ロボットを見せてもらったり、黒はんぺんが名物の静岡のおでん屋にも連れて行っていただきました。全国ふるさと大使連絡会議の理事を務めているので、2025年には視察ツアーで静岡を訪れる予定です。愛知県の小坂井商工会でも講演し、担当の方が東京へ来られたときには立ち寄っていただき、今でも年賀状をいただいています。

■北陸編

富山県の富山商工会議所や富山市南商工会でも、指導員研修や対人能力の磨き方などをテーマにお話ししました。高岡市は海から山が見える珍しい場所だと同じ、「今度はご家族を連れて来てください。ご案内します」と言われそのままになってしまっているのが心残りです。石川県の加賀商工会議所でも講演を行いました。北國新聞社の方が取材に来てくれ、その後観光案内もしていただきました。

福井県の武生商工会議所で講演した際、サービス部会の方々が非常に仲が良く、楽しい雰囲気でした。先ほどお話しした新潟のケーキ店さんに、新作スイーツと越前ガニを送っていただいたことがあります。ちょうどその日の夜に受講生の集まりがあったので持ち込むと大好評で、店長さんいわく「カニの甲羅に日本酒を入れて飲むと美味しい」とのことです。試してみると絶品でした。私が定期的に開催しているマジックディナーでも「カニの甲羅にぬる燗」をお

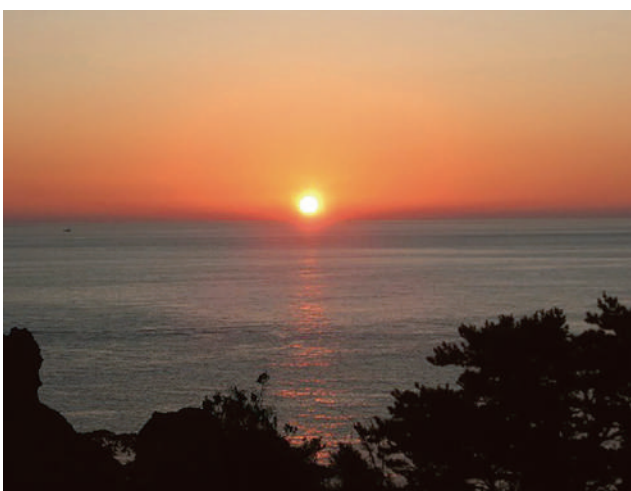


写真4 静岡県南伊豆

すすめるようになりました。

三重県の尾鷲商工会議所で講演した際、翌日に担当の方が観光に連れて行ってくださり、「鬼の横顔」に見える岩や、日本最古の神社とされる花の窟神社などを案内していただきました。東京に戻ってテレビをつけると、たまにたまにたけしさんの番組で花の窟神社が紹介されていて驚きました。神社仏閣好きの方に「日本最古の神社は？」と聞いてもなかなか知られていないようで、貴重な体験ができました。和歌山県のみなべ町商工会では中堅社員向けの研修、海南地域雇用情報連絡協議会ではビジネスマナーとコミュニケーションなどをテーマにお話しました。みなべ町は梅の産地で、南高梅をお土産にいただいて以来南高梅ファンになりました。

■中国・四国編

広島県の三原商工会議所や府中商工会議所でも新入社員セミナーや接客力アップ講座などを行いました。ちょうど都内で開催されるご当地グルメのB-

1グランプリに出展すると皆さん、意気込んでいらっしゃいました。

高知県の黒潮町商工会で講演した後、駅までお見送りいただき、新聞紙で作った手作りのカバンをいただいたのがとても印象的でした。皆さんが手を振る姿は今でも目に焼き付いています。

高知県農業共済組合での懇親会では、皆さんが「はちきん」というゲームをし、負けた方がお酒を飲むという余興を見せてくれました。私も右から土佐鶴、左から司牡丹と日本酒をいただいたのですが、おちょこの底が三角錐になっていて、飲み干さないと置けない形に驚きました。二次会で皿鉢料理^{さわち}を出していただいたのですが、懇親会でお腹いっぱいになり、もったいないと思います。いつも全部は食べ切れなかったのが心残りです。

安芸市にも講演に呼ばれ、懇親会後の二次会でカラオケに行き、翌朝も早く土佐カントリークラブでゴルフをするというハードスケジュールでした。いつもはゴルフ前日にお酒を飲まないのですが、初めて前日にお酒を飲んで

のゴルフでした。いつもまっすぐ飛ぶのにおかしいと思い、酔っているとこなるのだと教訓を得ました。それ以来、お酒を飲んだゴルフは控えています。最後のホールは海に向かう18番で、女子プロのコースでもあり素敵な体験でした。

■九州編

佐賀県の小城商工会議所では、2か月続けて講演を行いました。終わってから蜚が見られる場所に連れて行っていただき、電車の時間ギリギリまで鑑賞しました。名物の小城羊羹も初めて食べましたが美味しかったです。後日、当時の小城市長と都内でお会いする機会があり、その話をしたところ「幻の羊羹」を送っていただき、それも絶品でした。

長崎県の大村商工会議所でもビジネスマナーとコミュニケーションの研修を行いました。大村のゴルフ場の社長から「従業員に受講させたい」と言われた2日後に、ちょうど同じテーマの研修依頼を商工会議所からもらい、社長自ら参加してくださるという偶然が

重なって驚きました。当初より多くの参加者が集まり、会場をホテルへ変更するほどでした。講演後は関連会社の方々と懇親会を楽しみ、翌日は佐世保や九十九島、ハウステンボスを回り、バラ園や野生のウサギなどを見られてとてもいい体験をしました。

新上五島町商工会でも「おもてなしの心」について講演を行い、生まれて初めて五島列島に行きました。勝手に「離島」のイメージを抱いていたのですが、普通に町並みが広がっていて驚きました。2時間のセミナーにもかかわらず、長崎港から朝夕のジェットfoil（高速船）しかないため2泊3日の行程になり、泊まったホテルで地元の美味しい食事を堪能しました。翌日の講演前には担当の方が観光に連れて行ってくださり、グルメ漫画『美味しんぼ』にも登場したという店で五島うどんを初めて食べましたが絶品でした。夜は珍しい魚が並ぶお店に連れて行っていただきましたが、「本当に美味しい魚は東京に出回らない」という話を伺って、地元でしか味わえないものがあるのだと実感

しました。また、その魚に合う「五島」という焼酎もいただき、とても美味しかったです。夜に港を散策していると、地元の中学生から自然に挨拶され、人との触れ合いを大切にしている地域性に感じました。翌日はいろいろな教会や亀山社中ゆかりの場所などを巡り、歴史を感じることができました。

受講生はほとんど女性で、最後にグループワークを行ったところ、お互いをよく知らなかった方同士が話すことで意外な共通点が見つかったり、修学旅行の受け入れ人数に関する悩みをお互いのホテルで連携すれば解決できると大変喜んでいただきました。普段は会っても挨拶程度だったそうですが、こうして話す場を持つことで問題点が共有され、新しいアイデアが生まれたと感謝されました。

講演のときにサプライズコミュニケーションでマジックを教えるのですが、宿泊ホテルの方々も帰って早速喜んで実践していました。

■伊勢編

三重県の鳥羽商工会議所では「今、求められるおもてなしの心」などをテーマに講演を行いました。せっかくなので伊勢神宮へ行ってみたいと思っていましたところ、ちょうど日本商工会議所の会頭とお会いする機会があり、自分が発明した飛び出す3D名刺で名刺交換をしたところ大変驚いてくださり、式年遷宮で話題の伊勢神宮についておすすめを伺いました。すると「今、商工会議所の3階に式年遷宮のプロジェクトチームがあるから行ってみては」と教えていただき、後日そちらでお話を聞きました。当時、権瀬宜さんだった方が対応してくださり、伊勢神宮には125もの神社があること、内宮の近くに神宮会館という宿泊施設があることなどを丁寧に教えていただきました。これをご縁に毎年伊勢神宮特別参拝ツアーが始まり、普通では体験できない神宮会館での宴会も格別で、帰ってからご利益があると喜ばれています。今年で10回目ですのでどんなドラマがあるのか今から楽しみです。

■その他の活動と広がる「縁」

商工会以外でもいろいろなところに呼んでいただいています。ビール会社

営業マンの紹介で、台東区にある酒問屋の小泉商店から「塾の初回講師を探している」とお声がけいただいたのがきっかけで、日本酒に目覚めたエピソードがあります。当時、日本酒はビール人気に押されて衰退していましたが、当時の社長から「あなたに日本酒のファンになってもらいたい」と言われ、蔵元も3代目で廃業というところが多く、「安いお店からより、あなたから買いたいと思われるには」の内容の講演をしました。その後、全国に行く機会があり、土地土地の美味しいお料理に合うお酒ですっかり日本酒のファンになりました。

大相撲の千秋楽パーティーで横綱にマジックをしたところ、朝稽古に招待してもらいました。稽古後のちゃんこ食事中は雑誌の取材を受けており、親方が「取材が終わったら君を紹介するからね」と言ってくださいました。そ

の横綱が私のことを「マジシャン！」と覚えていたので、親方もいつも覚えられないのに覚えてはすごいと言ってくださいったのが嬉しかったです。

取材の際、「好きなお酒は？」と聞かれた横綱が「日本酒」と答えたところ、親方が「久保田って言え！来るぞ！」と叫んでいました。ちゃんこを食べていた横綱に「ビール飲みたいですよね」とマジックでビールを出したら喜ばれました。

数日後に朝日酒造の役員の方と出会い、その話をしたところ相撲取りはもち肌で日本酒好きが多いと聞きました。その後「萬寿」の一升瓶半ケースを、1本は親方へ、1本は横綱へ、残りは飲んでくださいと送っていただきました。後日部屋に持っていくと二人とも大喜びで、親方はすぐに自室へ持っていききました。

その朝日酒造の会社保有の保養所が妙高にあり、「食事も美味しいので、新入社員研修で来てください」と声をかけてくださり、1泊2日の研修を行いました。夜は8人ほどで美味しい料

理を食べながら「萬寿」で乾杯し、生酒の「翠寿」や3年熟成の「轍」なども飲んで大いに盛り上がりました。翌日の研修もあるので「最後の1杯」と上司に言われた隣のリーダーがコップをひっくり返してしまい、慌ててこぼれたお酒を吸いにいったのを見て驚きました。「机にお酒飲ませてもったいない」と年配の方が吸うのを見たことはありますが若い方でもするのだと。お酒造りの大変さを知るからこそその行動だろうなと思いました。

相撲部屋を訪れてちゃんこを食べる機会もよくあり、「パチンコばかり行っていないで先生のコーチング受ける」と親方に言われていた力士もいます。

ある親方の結婚式ではNHKのアナウンサーの方とご縁があり、その後両国にあるちゃんこ屋に連れて行っていただいたりもしました。後日、東京商工会議所・墨田支部で講演を行った際、最前列にいた方がそのちゃんこ屋の女将さんで、そこからお食事に行ったり「マジックディナー」を開催させてもらう仲になりました。

マジックディナーはさまざまなお店で通算150回ほど実施しており、以前は月1回でしたが、今では月2回、さらに今は毎週開催することもあります。元プロ野球レジェンドで解説者の方もいらして、野球ファンの皆さんが喜ばれたこともありました。私も野球好きですので嬉しかったです。

いろいろな話の中で分かりやすく面白いマジックを取り入れて楽しみながら学べる活動をしています。

最後にコミュニケーションワークを行い、参加者はテーマに沿ってグループで話し合います。話のテーマによりますが、話し合うことで意外なつながりを発見し、新しい連携やアイデアが生まれたとの声を多くいただきます。

普段笑わない方も最後は笑顔で元気に帰られます、と担当の方に言われます。

講演の魔術師とも言われ、講演とマジックという「ブルーオーシャン」分野で笑顔と驚きを通じて人と人との結びつく瞬間を目にできるのは、大変ありがたいことです。

今回も新春マジックを皆さまにお見

せてきて良かったです。私の家の近所の方や、行きつけの飲み屋が近所にある方が隣同士で驚きました。後日3人でそのお店に行き、鍋と日本酒を楽しみ、隣の親子連れにマジックを見せると、子どもたちの素敵な表情が見られ、お店とも良いご縁ができました。

人と話すことで認知症予防になり、共通点が見つかることで人の見方が変わってきます。より後悔の少ない人生を送っていただきたいです。何かやりたいことがあれば、今からでも遅くないので行動していきましょう。いろいろな方の夢をかなえたり悩みを解決していますので何かお手伝いできたら嬉しいです。

■おわりに

全国各地から呼んでいただき、多くの経済人たちと出会い、交流を深めることができています。担当者の方々の人柄、名産品、美しい風景に触れる機会に恵まれ、各地の神社への訪問とその土地の神様に導かれたことを感じるたびに、感謝の気持ちでいっぱいになります。

マジックを通じて人との新しい出会

いもありました。ただ奇術を楽しむだけでなく、未知の世界を受け入れ、一歩踏み出す心を持ち、人と出会う楽しさを味わってください。

今後「マジック脳®になろう!!」のテーマを胸に、人々とのご縁を大切にしていきたいと思っています。

(2025年1月23日・公開講演会)

筆者略歴(のぐち・まさよ)

東京都墨田区出身。あったかふくしま観光交流大使・いしかわ観光特使。文教大学女子短期大学部卒業後、不動産賃貸業に。2006年「オーロラ・ビジネススタイル研究所」(<https://aurora7.jp>)を設立し代表を務める。マジックを取り入れた独自のスタイルで、栄養学・心理学・コーチングを通してコミュニケーションやビジネスマナー、おもてなし&接客術、メンタルヘルスなど、心と体の健康をテーマに研修・講演を全国各地で開催している。

陶陶俳壇

句会
陶陶結果
2025年3月

兼題 「卒業」

馬場由紀子

病室の窓は風花息淡し

松島二三四

◎正子

病室の静かに流れる時間、澄んだ意識が伝わります。

◎由紀子

看取りの日々の切なさの象徴のような風花が効いています。

冴え返る臍の緒包む古き綿

〃

◎正堂

簞笥の引き出しに臍の緒を発見し、これが吾のものかと過ぎし歳月を愛おしむ。

◎由紀子

自分の臍の緒を見るときはどんなときだろう。我が子の誕生、そして自身の身の回りの整理をするとき。「冴え返る」の季語でその答えは自ずと窺い知れる。

白梅に龍の潜める古木かな

日野正子

◎二三四

梅の古木には龍が這っているような形状のものがあります。いかにも由緒ありげ。秋、龍は淵に潜むと言いますが、その謂れを引いたとも思われる味わい深い句です。

◎明良

梅の古木に龍が棲むとは初めて知りました。やはり白梅でないと龍には似合いませんね。白梅の古木のつづつとした幹にはいかに龍が棲んでいるのです。

◎正堂

深大寺卒業近き友集い

〃

◎紅杓

深大寺周辺は江戸時代から深大寺村と呼ばれていたが明治22年近隣の柴崎村などと合併し、神代村が誕生した（昭和27年神代町に）。昭和30年調布町と神代町が合併し、調布市が誕生、昭和36年神代植物公園が開園したというのが深大寺と神代植物公園が

同じ土地にあるのに漢字が違ふ経緯らしい。神代植物公園では、2月上旬頃から4月にかけて、ウメ、ツバキ、サクラなど春の植物が次々と開花し、春の訪れを感じながら風情ある花の景色を堪能でき、節目となる卒業を控えての思い出となる集いを楽しむことができるでしょう。

サクラチル風に向かいつ卒業す やまやえつこ

◎由紀子

「サクラチル」に含まれるものは人さまざまでしょう。思い通りにいかない人生の象徴としての「サクラチル」、ここでは季語ではありませんね。この先どんな困難が待ち受けようとも強く生きていくんだという作者の意志が頼もしい。

◎紅杓

高校生の句のよつです。

牧童の指さす先に杏花村

〃

◎二三四

桃源郷の故事を思わせます。牧童に尋ねると「ボラあそ」という。指さす先に杏の花咲く村が見えた。のどかな春の景色です。

同期生三割に減る卒寿かな

橋本紅杓

◎明良

三割もいる！長寿社会は素晴らしいですね。昔なら仙人と呼ばれた人々です。

何もかも卒業なりや卒寿かな

〃

●由紀子 人生百年時代、卒業はまだまだ。

卒業の意味を弁え花見酒

瀬崎明良

◎紅杓

卒業しての開放感を花見酒で味わっている。

◎えつこ

紅梅が老木に紅挿したるや

〃

◎正堂

あわ雪や老婆の頭そつとなで

上野京

◎由紀子

春の雪は老婆にも優しい。淡雪は優しき心そのままに

〃

◎明良

ふんわりと降る淡雪は寒さの中でも心を和

ませてくれます。

匂鳥鳴くや障子をそつと開け 大内善一

◎明良

敏感な鳥は気配を察して直ぐに逃げますが、枝から枝へと飛びまわる鳥の姿は美しく息を殺して見とれます。そつと障子を開ける表現が巧みです。

◎正子

「そつこ」が優しい。

我が家の庭にも毎年鶯が訪れます。

◎紅杓

朱の色に指の爪染め卒業す

〃

◎由紀子

明日から校則に縛られることがないという開放感。ちよつとフライングですね。

廃線の蒲公英道を通院す

馬場由紀子

◎えつこ

かつては通勤通学で多くの利用客を乗せて走っていた電車の道を、今は通院のため一人で歩く。寂しさをタンポポが慰めてくれるように。

◎二三四

廃線後のレールを辿るという番組がときどきあります。古いレールにはタンポポも生えるでしょう。タンポポの黄色を辿るように行きつけの病院へ向かう。穏やかさ、懐かしさとともに、縮みゆく地方の課題も感じられ、さまざまに考えさせられます。

◎正子

通院路の廃線を歩いていくと咲き始めたタンポポの輝くような黄色が気持を明るくした。

鍼打って動き出す肩鬼やらひ

〃

◎明良

四十肩五十肩の後は当たり前の老肩でしょう。鍼打ってなお豆まきは元氣印です。鬼やらひは節分に行われる行事。がちがちに凝った肩に鍼を打ったら、肩が動き出した、思いがけず厄除けまでできた、と読みました。

◎二三四

◎正子

鍼を打ってまでも豆を撒きたいのですね。

◎紅杓

肩凝りの酷さが「鬼」とマッチします。

◎えつこ

*旧かな、新かな、作者の意図に任せる。

ようよう 陶陶俳壇

会
句
陶
結
果
2025年4月

兼題 「蛤」

馬場由紀子

埋もれたる日蓮堂に花ふぶき

瀬崎明良

◎正子

花吹雪がことの外美しい。

◎えつこ

ふだんから訪れる人も少ないお堂ですが、
かくれた花の名所なのですね。子どもの頃
よく遊んだ神社を思い出しました。

◎二三四

鎌倉の日蓮堂でしょうか。仏教に詳しくな
い身、具体的な背景がわからないのが残念
ですが、下五の表現とそこから想像した景
でいただきました。作者の自句自解をぜひ
お伺いしたい。

◎紅杓

佐渡流罪の赦免状を受け取った日蓮聖人が
本土を目指したが風が悪く佐渡南岸にある
「真浦」という港に入り、泊めてくれる民家
もなく一夜を明かした。今は埋もれた洞窟
があるそうです。日蓮堂は洞窟で一夜を明
かした日蓮聖人を自宅に招いた船元家が足
跡を守るために建てたお堂のことをいう。

霞去り眼下に広がる花の里

〃

◎善一

霞たなびく桜の里を上から眺める景はあた
かも箱庭を見下ろした屏風絵のようである。

◎紅杓

小難しい会議も弾む花筵

橋本紅杓

◎由紀子

町会の会議じゃないかな。この時期は人事
や予算で難しい顔になりがちだけど、花筵
会議なら始終にこにこでいられそう。

◎善一

花筵広げて野外委員会

〃

◎由紀子 委員会もこれならスムーズに進みそう。

芽吹あり強剪定の金木犀

日野正子

◎二三四

剪定にもいろいろあり、「強剪定」が太い
枝を短く切りつめたり、多くの枝や芽を切
り落とすようなやり方だと初めて知りまし
た。前年の秋、枝を短く切られた金木犀
だったが、春が近づき、短い枝のあちこち
に芽吹きが見られる——。生命の不思議と
力強さ。春ならではのパワーを掲句からい
ただきました。

◎紅杓

金木犀は枝を多く切りすぎたり葉がなくな
るような強剪定をすると、枯れてしまつ可
能性があります。剪定期期を守り、過度な
剪定を避けることがコツだそうです。強剪
定をしたのち、芽が吹いてきたときははっ
とされたことでしょう。

◎善一

仕上がり に酒をひと差し潮汁

〃

◎善一

魚介類を水や酒で煮て、塩で味をつけた汁
物が潮汁であるが、「仕上りに酒をひと差
し」の語句が良い味に仕上げた感じがした。

◎えつこ

「酒をひと差し」でいい香りが漂ってきます。
吸い物は仕上るととき、最後に盃一杯を加
える。このわずかな酒が、興行きのある上
品な味にかえてくれる。

◎紅杓

無造作に束ねたミモザ風軽し やまやえつこ

◎善一

女性の髪が風になびくのは絵のようですが
息子の束ねた髪は切ってやりたい。

◎明良

◎二三四

春を告げるミモザの黄色い花は国際女性デ
ーの象徴でもあります。わたしはわたし、何
者にも優れない。ほかの花と合わせて豪華
なブーケにするのではなく、ミモザだけ、リ
ボンも巻かない素朴な一束にするのがさわ
しい。「風軽し」とも合っています。「束ね
た」は「束ねし」のほうがよいのでしょうか。
か？ あるいは「し」の重複をあえて避け
ておいでなのでしょうか。

◎正子

春が巡ってきてミモザが満開だ。部屋にも
飾りましょう。春風が快い。

いかのぼりぐんぐん空に吸い込まれ

◎善一

◎正子

関西では「いかのぼり」というのですね。
ぐんぐんと勢いがあります。

豆の花不幸を悔いることばかり 松島二三四

◎明良

豆の花を見ては親孝行が不足したとの思い
は理由があるでしょうか。私も孝行不足は
何かにつけて悔やんでいます。

◎えつこ

身につまされる句です。でも豆の花は「そ
んなことないよ」と慰めてくれていているよう
に思えます。

◎由紀子

私もそうです。結構みんなこのような気持
ちでいるのではないのでしょうか。身近な
「豆の花」がいいですね。

花の香や六寸壺に眠る母

〃

◎明良

花が咲いても見せたい親が壺の中では胸にし
みるでしょう。壺の表現が生きています。

◎えつこ

きつと何につけてもお母さまを思い出され
るですね。花の香り、お母さまも一緒に
嗅いでおられることでしょう。

◎由紀子

骨壺ですね。思い出します。悲しみととも
に、母が病の苦しみから解放されたという
安堵もありました。

蛤の腕をすゝりて殻の数

伊藤正堂

◎正子

美味しそうです。

◎由紀子

贅沢で美味しい澄まし汁。後に残る殻を見て
いると美味しさが蘇って染み込んでいく。

幼子が蛤かれて網重くなる

〃

蛤や念仏唱へる間に開き

馬場由紀子

◎明良

仏を拜むのも蛤を料理しながらでは気が気
でないのでは。

* 旧かな、新かな、作者の意図に任せる。

中国

ウメツチンク

編・訳 上松玲子

若者の夢につけこむ

丁さんはSNSでドラマのキャスティング担当を名乗る者から「君しかない」というメッセージを受け取り、衣装代、保険料、交通費など6762元を支払ったが、おかしいと思ったときには連絡がつかなくなった。犯人は捕まり、懲役6か月、罰金5000元の有罪となった。

近年エンターテインメント産業とインフルエンサー経済の過熱に伴い、若い人にスターや俳優を夢見る人が増え、犯

罪者につけこまれる要因となっている。彼らはまずSNSで「リスクなし」「無料で養成」などをうたって警戒を解いた後、保証金などの名目で金を要求する。金が入った後は、延期や調整を理由に時間を稼ぎ、そのうち連絡がつかなくなるという。

最近、北京市大興区人民法院が受理した16件のマネージメント契約紛争事件が注目を集めている。2023年末、設立わずか半年のメディア企業が、SNSを通じて多くの大学生にダイレクトメッセージを送り、「無料でインフルエンサーを育成」「ライブ放送なし」を売り文句に「企業協力契約」に誘導するのだが、実は契約書には1か月最低24日、1日最低3時間ライブ放送を行うことや30万円の違約金など厳しい条件が盛り込まれている。

大学生の関さんは契約後、

制作会社から撮影の質が基準以下だという理由で、メイク代や交通費などの立替金の返金を拒否されたばかりか、生放送の義務を拒否したのは契約違反だとして約30万円の損害賠償を求められた。

公判前調停で会社側が提出した経費に虚偽と水増しがあったこと、契約時に契約書の文言は単なるひな型で責任追及はしないと不当な誘導があったことが認められ、損害賠償請求が取り下げられた。

業界関係者は、こうした業者は多くの学生を狙い、彼らの社会経験不足や権利擁護意識の低さにつけ込み、訴訟によって圧力をかけ、不当な利益を得ることを目的として指摘している。大興区人民法院の裁判官、魏若南氏は、若者は防犯意識と法意識を高め、契約書に署名する際には契約条項を注意深く読み、口約束を信じるべきではないと

述べた。また、業者は慎重に選ぶこと、メッセージのやりとりはすべて保存しておくことを勧めている。

〔中国青年報〕2025年4月11日

シルバー経済の旗手

急速な高齢化を背景にウェルネスツーリズムはシルバー経済とヘルスケア産業において、健康、介護、観光を融合させた新しい消費モデルとして、消費の重要な成長ポイントになりつつある。

国家统计局のデータによると、2024年末現在、中国の60歳以上の人口は総人口の20%以上を占める2億9000万人を超えた。ウェルネスツーリズムの消費額は2兆円を超え、シルバー消費の約20%を占め、従来の観光産業を大幅に上回る、前年比15〜20%の成長率を維持している。国务院弁公庁は昨年、「シルバー経済の発展と高齢者の福

祉の向上に関する意見」を発売した。ここでは新ビジネスモデルの創出や、関連産業が全国規模で協力できる体制の構築などを通じて、シニアの旅行消費の障壁となっている制度や仕組みを取り除くことをめざす。関連政策は浙江省麗水、雲南省昆明、海南省博鳌などのウェルネス拠点をめざす小さな町にも及ぶ。

展望は明るい。産業としては、新規企業の数が増し、大手企業も参入している。中国には、世界遺産、国家5A級の景勝地、伝統的な中医学文化などの強みがあり、沿岸の都市部、北部の森林草原、西南の自然文化など多彩な旅行先がある。ウェルネスツーリズムを看板とする企業も増えた。データによれば、現在、全国200以上の国家森林康養基地が建設されており、江蘇省台州医薬城や貴州省赤水河などのウェルネスモデル都市

も成功している。ウェルネスツーリズムの持続可能性とシルバー市場の潜在的消費力が実証されていると言えよう。利用者からみれば、従来の単一消費型から抜け出し、教育文化や体験型活動と組み合わせる。例えば太極拳や武術講座、陶芸体験、健康増進フルコース料理などである。文化体験、心身の療養、健康関連消費を組み合わせた団体旅行のリピート率は60%を超えるという。

『経済日報』2025年4月17日

大学生のAI利用を制限

南京大学は「大学生による生成型人工知能（生成AI）ツールの使用基準に関する指導意見（試行）」を先日可決した。この指導意見は、大学生のAIの使い方をも明確に規定している。論文、課題、レポート、または作品の重要なコンテンツの作成に生成AI

ツールを使用することを禁止している。例えば研究テーマ、研究意義、研究計画、プログラムデザイン、データや結果、分析討論、結論、引用と参考文献リストの直接生成などが禁止対象に含まれる。またこれ以外はよいということではない。最終的には学術成果の独創性と学術的誠実性を確保し、学術上の不正行為を防止することが目的だ。

南京大学本科生院の王駿院長は、「指導意見」はAIを一律に禁止するものではないと述べた。また、AIツールの適切な活用は業務効率を上げることができるが、学習においては、授業内容や教師の指導内容に応じてその利用を規制する必要がある、学習シナリオにおけるAIツール利用の適切な線引きは、人とAIが共存していくための正しい道だと述べた。

復旦大学、北京師範大学、

天津大学など多くの大学が、AIツールがもたらす課題に對して、それぞれの方法で積極的に対応している。例えば、天津科技大学の教務課は、卒業論文における生成AI検出の結果が40%を超えてはならないとしている。北京師範大学の新聞伝播学院と華東師範大学は、AIツールを使用して課題を完了する場合は、明確にラベルを付け、コンテンツが20%を超えてはならないとしている。復旦大学はより厳しく、卒業論文におけるテキスト生成や推敲、翻訳などの作業にAIツールを使用することを明確に禁止した。大学は積極的に「行動」を起こしているものの、人工知能ツールの利用に関する統一基準や規範は国家レベルでは確立されていない。「AI倫理教育」が大学教育における新たな課題となっている。

『揚子晩報』2025年4月18日



◆令和7年度第2回理事会の議題（5月23日開催）

今月の理事会は5月30日に開催される社員総会の進め方などを審議した。

今年の総会は、総会の状況を視聴希望会員にズームで配信することとした。

また来期の協会の体制についても意見交換を行った。

（事務局長 竹前栄男）

◆寄贈図書

6月19日講演の温秋穎様より自著『近現代日本における中国語受容史』（岩波書店）寄贈。

会員だより

◎新会員

〈協力会員〉岡本孝夫

▼会員寄贈図書

矢吹晋様より自著『和魂漢才―朝河史学から描く内外整合の日

本像』（花伝社）寄贈。

◎訃報

田畑光永氏（89歳）

令和7年5月7日逝去

謹んで哀悼の意を表します

同好会だより

〈俳句会〉馬場由紀子先生

毎月第2水曜日午後1時から、

オンライン（ズーム）での俳句

会を開催。未経験者も大歓迎で

すので、興味のある方は事務局

までご連絡ください。

〈謡曲会〉松木千俊先生

お稽古は一人ずつの個人指導

です。未経験者も大歓迎ですの

で、興味のある方は事務局まで

ご連絡ください。

〈一石会〉

毎月第2土曜日午前11時から、

7階談話室にて開催。囲碁初心

者歓迎。参加希望者は、開催日

前々日（木曜日）までにメール

で幹事（瀬崎明 asaken2000@g

mail.com）までご連絡ください。

みんなの写真館

聖ヨハネカネヨ教会（表紙）

今年4月に、興味津々の思いで北マケドニアを訪れた。

1991年にユーゴスラビアから独立した南東欧の小さな

国だが、かつてはユーゴスラビア社会主義連邦共和国の構

成国として、社会主義の国でもあった。21世紀に入っても、

民族間の抗争に巻き込まれたが、2020年にNATO加

盟を実現し、現在EU加盟候補国となっている。

このマケドニア観光でどうしても見たかったのが、オフ

リド湖畔の聖ヨハネカネヨ教会だ。

オフリド湖は、北マケドニアとアルバニアに跨り、バル

カン半島で最も水深の深い湖で、最深288㍎、湖岸線の

長さは88kmある。400万、1000万年前にできたとい

われているヨーロッパ最古の湖であり、世界でも最も古い

湖の一つだそう。

湖の周りにたくさんさんの教会が建っていたこの町は、9世紀頃に聖クリメントや聖パウ

ムが布教活動を行って以来、スラブ世界におけるキリスト

教文化、教育の中心地として栄えた。

聖ヨハネカネヨ教会はマケドニア正教会の教会。15世紀

以前の創建で十字型の平面構成をとり、アルメニアの建築

様式の影響が見られる。オフリド湖に突き出た岬の先端に

位置している小さくてかわいらしい教会は、オフリドを代

表する教会になっている。湖畔の岸壁に立つ教会を山の斜

面から臨めば、青い湖水を背景に金色に輝いて絶景となっ

ている。この写真もここから撮った。

（姜晋如）

2025年7月の行事予定

- 3日（木） 14：00 公開 第9回対面&オンライン講演会
「ウクライナ戦争の行方——プーチン・ロシアの近未来と日本のあるべき対露政策」
杉浦敏廣氏（伊藤忠総研・外部委託研究員）
- 8日（火） 14：00 謡曲会（松木千俊先生お稽古）
- 9日（水） 13：00 俳句会
兼題「トマト」および当季雑詠から5句を投句（6月30日までに）
- 10日（木） 14：00 公開 第10回対面&オンライン後援会
「中国のデザインの現状とGKデザイン機構の役割」
長田喜晃氏（㈱GKデザイン機構、GK上海董事総経理）
- 12日（土） 11：00 一石会囲碁例会（於7階談話室）
- 18日（金） 14：00 公開 第3回【21世紀アジア塾】講演会（講演委員会と共催）
「中国観察報告——2025年下半期の中国と世界」
結城隆氏（多摩大学客員教授、当会会員）
- 24日（木） 14：00 公開 第11回対面&オンライン講演会
「中国の近代思想と日本」
齊藤泰治氏（早稲田大学政経学術院教授）
- 25日（金） 16：00 会員暑気払い（会費1,000円）

7月の会議予定

1日（火）13：00	国際交流委員会	15日（火）15：30	広報委員会
8日（火）14：00	環境委員会	23日（水）13：30	東北委員会
11日（金）14：00	講演委員会	25日（金）13：00	理事会

※下線は通常日程に変更あり。

※8月の講演会はお休みです。

みんなの 写真館

書画に見る日中交流の精神世界⑥

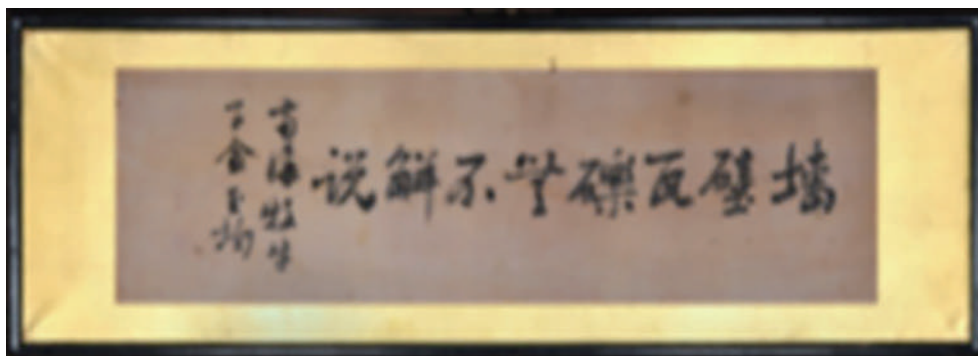
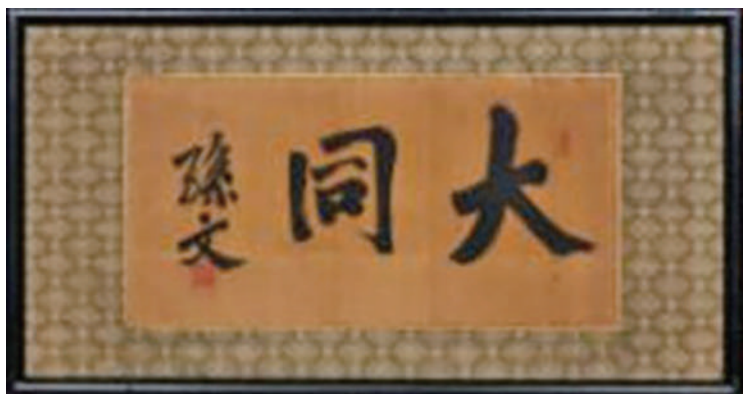
(協力：橘倉酒造不重来館)

善隣友好の書／民権重視の書
孫文（1866～1925年）

中国建国の父、三民主義を唱える。1905年東京において中国革命同盟会を結成、宮崎滔天、犬養毅、梅屋庄吉ら多数の日本人の支援を受ける。中国近代化のモデルを明治維新に求めるが、1915年日本は対華21か条の要求に走る。

1924年「日本は欧米覇道の走狗となるのか、東洋王道の守護者となるのか。それは日本人自らが決めることである」の言を残し神戸から離日、残念ながら日本は前者の途を歩んでしまった。

書：中国近代化、革命運動の真髄「小異を捨て大同団結すること」を訴えたものであろう。日本では孫文の書として「博愛」をしばしば見る。



善隣友好の書

金玉均（1851～1894年）

朝鮮李朝後期の開明派政治家。明治維新を範とし日本を視察、のちに亡命。福沢諭吉、宮崎滔天らの支援を得る。日中韓の同盟「三和主義」を唱える。1894年上海にて暗殺される（韓国での評価には是非がある）。自由民権運動家小山悦之助氏（長野県小諸の人）と親交があったといわれる。

書：墻壁瓦礫無不解説 南海牧牛子金玉均

INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<https://www.kokusaizenrin.com>